



「桜吹雪」絵・文：白澤 恵舟

春は待ちどおしく、毎年新たな感動をもって迎える。桜花爛漫の華やかさも好ましいが花吹雪の潔さも日本の魅力。

郷土の先覚(2)

会長 菅原 三朗

前号で郷土の先覚者、農聖石川理紀之助翁について述べたが、もう一人の先覚者は「菅原源八翁」である。翁は現在の潟上市昭和新聞で寛政六年(1794)生まれで明治十二年(1897)八十六歳で亡くなっている。

幼少時より父母や祖母から礼儀作法を厳しく躰られ、読み書きの素養は十歳の時より、地元円福寺住職名僧の荊瑞智混禅師に、また十八歳にして大久保村の医者高橋一鳳について医術を学んでおり、進んで久保田城下(現秋田市)の学者に、それぞれの道につき修得する努力をしている。何分にも農家育ちである。ほとんど独学で精進を重ねて教養を深めるとともに趣味も豊かで花道・茶道・詩歌・俳諧・天文暦・算術など数々をたしなんだ。医術については本業ではなかったが、評判を呼

び、郡奉行配下の役人より「諸人のためであるから医業を続けるように」と言われた経緯があり、仁医として慕われていた。

二十一歳にして父親を亡くし家督を相続、新聞村の村長名役(肝煎補佐)となっている。

特筆すべきは、翁四十一歳の天保四年(1833)は、後の世の人々が「天保の大飢饉」と名付けた大飢饉に襲われ、民衆は言語に絶する苦難に遭遇した。その時源八翁は自らの全備蔵を開き難民の救済に全力を尽くし、藩から要請された二倍の三百両と銀一五〇〇貫を献納した。この功績により藩主佐竹公より賞賜として永苗字・帯刀・翁の紋章入りの袴・禄四人扶持を賜っている。

天保十四年(1843)五十歳の時から本村大久保村の肝煎を勧めたが、その勤めぶりが優れていたため、仲々辞めることを許されなかったが、病気を期に大役を解かれ元木村に別宅を設け「一松軒三石」と名付け、晴耕雨読の生活を始め「日ぐらし草紙」を手始めに数多くの随筆著作を残している。総

じて内容は当人の体験や日常の身の廻りの出来事や、折々の感想を綴ったもので、幕末から明治維新前後の急激に移り変わる世相に戸惑う民情の姿を、東北地方の一庶民の目線で鋭く捉えたもので当時の世相をうかがい知る貴重な庶民生活の記録である。原書は毛筆による「漢文漢字仮名混合の候文」であるが、この難解な著書を菅原源八翁研究家である渡辺喜一先生(秋田市住)が四半世紀もの時間を労して、翻刻・校訂したが平成七年三月菅原源八翁顕彰会より「菅原源八遺作全集・上中下三巻」として発刊されている。

平成六年春、源八翁ゆかりの地新聞に「湖南交流センター」が建設されたのを機に「菅原源八翁遺品展示室」が開設され、一般に公開されている。

源八翁は豊かな教養・識見のもと、ゆるぎない信念で全生涯を通じ清廉を貫き人を助け自分の信ずる道を歩み続けた人格者である。地域の指導者・仁医・随筆家・詩歌人などとしての人物像が、更に広く多くの人々に理解され認識を深められるべき人物であり、真に郷土の誇れる偉大な先覚者である。

県総合評価落札方式について講義

リーダー研修会

3月19日、秋田ビューホテルにて秋田県建設青年協議会（平野久貴会長）によるリーダー研修会が開催され、会員約60名が参加。秋田県建設交通部より講師を招き、総合評価落札方式などについて研修を行った。

冒頭のあいさつにて平野会長は、「建設業界はここ数年厳しい時を過ごしており、東北各地において企業倒産が相次ぐなど業界は混沌としている」と述べ、「総合評価落札方式という新たな枠組において、一生懸命、これらについて議論し、また、受け入れながら生きていかなければならない」との考えを占めした。

研修では始め、県建設管理課技術管理室が総合評価落札方式について、今年2月に改訂された運用ガイドラインからの抜粋により、具体的な事例を交えて講義。▽評価点の加算方式による算定、従来の除算方式との違い、試算例▽契約後VE提案▽継続学習制度（CPD）の評価などを説明。締めくくりに「日頃、常に問題意識を持って業務に取り組んでいただきたい」と述べ、契約後VE、工期短縮・安全確保・品質確保など「いいアイデアが生まれたらどんどん提案していただきたい」と参加者をお願いした。

また、秋田県の平成20年度新事業「建設業活力再生事業」を県建設管理課から説明。公正・透明な競争環境の整備、企業の自助努力支援、地域を支える活動の促進の三本の柱を中心に説明が行われた。



公共工事設計労務単価

秋田県平均増減率96.9%

国土交通省総合政策局建設市場整備課では、農林水産省及び国土交通省が、平成19年10月に実施した公共事業労務費調査に基づき、平成20年度当初からの公共工事の工事費の積算に用いるための平成20年度公共工事設計労務単価（基準額）を決定、公表しました。

東北6県の主要職種の単価概要は表のとおり。

県別主要職種の労務単価（増減は前年比）

（単位：円）

職種	青森県		岩手県		宮城県	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
特殊作業員	16,800	△ 600	15,100	△ 500	15,600	△ 500
普通作業員	12,400	△ 400	12,700	△ 400	11,800	△ 400
軽作業員	9,200	△ 300	9,200	△ 300	9,200	△ 400
とび工	14,500	△ 500	13,500	△ 400	14,000	△ 500
鉄筋工	15,600	△ 500	14,800	△ 500	16,700	△ 600
運転手(特殊)	18,200	△ 500	16,600	△ 600	16,700	△ 600
運転手(一般)	16,500	△ 600	14,200	△ 500	15,000	△ 500
型わく工	18,000	△ 600	17,300	△ 600	18,000	△ 600
大工	15,700	△ 500	15,500	△ 500	15,700	△ 500
左官	15,900	△ 500	16,200	△ 600	16,400	△ 600
交通誘導員A	7,100	0	7,300	0	7,800	△ 200
交通誘導員B	6,400	△ 200	6,800	0	7,200	△ 300
平均増減率	97.0%		96.9%		96.7%	

職種	秋田県		山形県		福島県	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
特殊作業員	15,700	△ 500	15,000	△ 500	14,700	△ 500
普通作業員	12,100	△ 400	11,700	△ 400	11,300	△ 300
軽作業員	9,600	△ 300	9,900	△ 300	9,200	△ 400
とび工	13,900	△ 500	13,800	△ 400	15,100	200
鉄筋工	15,600	△ 500	15,700	△ 500	16,000	△ 500
運転手(特殊)	16,900	△ 600	15,700	△ 500	13,800	△ 500
運転手(一般)	16,500	△ 600	14,200	△ 500	12,400	△ 400
型わく工	15,500	△ 500	15,700	△ 500	14,500	△ 500
大工	16,900	△ 600	14,500	△ 500	16,200	△ 600
左官	15,700	△ 500	14,900	△ 100	15,100	△ 500
交通誘導員A	7,100	0	7,700	0	8,500	0
交通誘導員B	6,600	△ 100	7,000	0	7,900	△ 100
平均増減率	96.9%		97.3%		97.3%	

なお、詳細については国土交通省ホームページに掲載されております。

<掲載ホームページ アドレス>

http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha08/01/010328_4_.html

協会人事

退職 (3月31日)	新任 (4月1日)
【本 部】 雇用改善コンサルタント 國部十二郎	菊地 正幸
【秋田支部】 労務課長 吉田 忠雄	須田 正隆

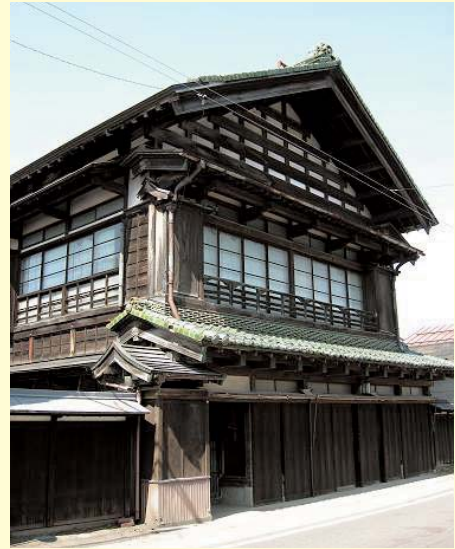
土木 建築の

近代化 遺産

No.67

山内家住宅

湯沢市吹張二丁目1番4号



湯沢市の羽州街道沿いにあり、市内の伝統的な町屋の中でも最大級の規模をもつのが藩政期から昭和まで呉服商を営んだ山内家である。山内家は、安永年間（一七八〇頃）佐竹藩士山内市兵衛家から分家した御用商人の家柄であったという。本住宅は七代当主の時の建築で、昭和七年、東京の建築士（秋田出身）の高堂徳治が設計し、同九年頃には竣工をみていたようだ。佐竹南家の城下町、外町南端の旧羽州街道沿いにひとときま目立つ商家造りとなっている。

主屋は、木造二階建、建築面積二五八・三四平方メートルで、梁間五間半、桁行一・二間半の切妻造妻入二階建て、棧瓦葺の建物である。通りに面し梁を数段重ねた妻面や正面と側面に取り付けられた多くの庇などが精緻で変化に富む外観を形成。さらに瀬戸で焼かれた深緑の陶器釉薬瓦で葺かれた大屋根はこの地区では他に見られない珍しいもので大きな鬼瓦にも目を奪われる。内部もまた柱や梁など総じてケヤキ材をふんだんに使った重厚な造りとなっている。建物全体、簡

素ながらも細部の部材にこだわりを見せる質実なものである。

さらに、本住宅の敷地内には軽快な意匠でまとめられた裏座敷のほか、文庫蔵や道具蔵、商品蔵、穀蔵などの重厚な土蔵群が建ち並んでいる。今も居住空間となつている裏座敷は木造一部二階建、面積一四五・一五平方メートル。裏手が梁間二間半、桁行六間半の平屋建て、表側が梁間四間、桁行七間半の切妻造、平入二階建、L字型の建物となつており、寄棟造の棧瓦葺、真壁造の外壁、一部下見板張とする軽快な意匠でまとめられている。そのほか、梁間四間、桁行七間の切妻造、妻入二階建ての文庫蔵は、開口部に観音開きの扉を持ち、土蔵全体が耐火金庫の役目を果たしていた。

この山内家住宅は、歴史的景観に寄与しているもの、あるいは造形の規範となっている（裏座敷）ことにより、平成一九年一〇月に登録有形文化財（建造物）となり、現当主は山内慶信氏である。

（取材・構成／藤原優太郎）

情報コラム Vol.20

建設業活力再生事業

～技術力・施工力・経営力に優れ、
地域を支える建設業の新たな歩みに向けて～

3月21日、秋田県庁第二庁舎にて行われた「秋田県総合評価落札方式運用ガイドライン（第2回改訂版）説明会」において、秋田県建設交通部より平成20年度の新事業として、「建設業活力再生事業」が示されました。

この事業は次の3つの方針・8つの取組により構成されており、内容は次の通りとなっております。

<技術力・施工力に優れた企業をつくる公正・透明な競争環境の整備>

- ①価格と品質が総合的に優れた競争の促進
・総合評価落札方式の拡充
- ②技術力向上への支援
・専門技術者研修の実施
・秋田発新技術、新工法、新製品の普及・拡大
・優良工事表彰の拡充
- ③フェアな競争市場の形成
・地域の実情に応じた入札契約制度の改善
・ダンピング対策の強化
- ④対等・透明な建設生産システムの構築
・ワンデーレスポンスの施行
・工事施工調整会議（三者協議）の拡充
・下請取引適正化の推進（立ち入り検査の強化）

<体質強化を図り、経営力に優れた企業を目指す自助努力を支援>

- ①経営判断に資する効果的な情報提供
・ポータルサイトの開設
- ②最適な企業形態の選択や経営戦略の構築・実施に向けた取組への支援
・経営力向上実践講座
・支援施策ガイドブックの作成
・新展開へのインセンティブ評価の創設、拡大
・建設業新展開トライアル助成金

<経験・ノウハウを活かした地域を支える活動の促進>

- ①地域の生活空間の向上を図る取組の促進
・秋田スペック適用拡大
・リサイクルの取組拡大
- ②地域貢献と地域力向上への取組促進
・地域資源活用型企業活動への促進
・格付け審査での地域貢献活動の評価拡充
・新たな地域行政ニーズへの対応促進

「アンブラの里」余話

酢屋 潔

昨年の暮、私が少年時代に過ごした集落のよしなし事を書いた「アンブラの里」を出版したが、事情があって一気に完成に仕上げてしまった。今読み返してみてもう少し丁寧に書けばよかったと悔いている。

以下は「アンブラの里」に付け加えたい事柄を含めて、まつわる諸々の事を書き連ねてみたいと思う。

はじめに新築家屋の上棟式が出てくるが、この家は昭和十七年頃、この家の者が秋田市に引越しをしたので解体して舟で土崎まで運び將軍野に移築された。その家は終戦後まで建っていたが、この本の終り頃に生まれたあの赤ん坊が成長して一人前になってから今風に改築されたので昔をしのぶよすがはない。

小学校は戸賀の坂を下って左側の海辺に建っていたが平家だった。真中に体操場があり、その床は木目が浮き出していた。生徒達は毎日雑巾がけをするのであるが、何分砂が侵入するのでまるで紙やすりをかけた状態で木目が鮮やかさを増すのである。校長はことある度にこの木目のように我慢強く雄々しくなりなさいと訓示をした。ところが我々のクラスが体操の時間に一列になって走っていたら床が落ちて生徒が大怪我をし大騒ぎとなった。早速応急修理をしたのは勿論だが全面改修の話は聞こえて来なかった。

運動会はいつも今の八望台あたりの平地で開催された。何時頃から行われていたか聞きそびれたが、可成り昔からではないだろうか。何しろグラウンドのような敷地は何処を探してもないのだから仕方がない。八望台付近には一面に天然芝が生えているが、何という種類か葉が硬く裸足で走るとちかちかして少し痛い。いつだったかあの芝を無断で持ち出した業者が居て問題になったことがあった。八望台の展望台も今では大分古くなったが、私にとっては八望台が造られたこと自体が驚きだった。

あぶらっこ釣りは娯楽の少ない当時の子供にとってはこよない遊びだった。最盛期には大人も混じったが、こちらは生活がかかっていた。釣り方は関東方面から見ると大変幼稚だったが遊びには丁度よかった。あぶらっこは関東というあぶらめと混同するが、関東のあぶらめはこちらのしんじょうのことであぶらっこはくじめの事である。塩ふりの焼魚がおいしい。

さて、「なまはげ」であるが秋田の人でも案外お面以外は知られていない。男鹿においても集落により少しづつ行事は違う。この間、酒に酔って女湯に乱入したなまはげの記事が新聞に出ていた。観光も大事だがイメージはこわさないでもらい度い。

この本の名前にもなっている「アンブラ」であるが、これは馬鈴薯のことで語源はアイヌ語から来ているといわれているが、アイヌ語辞典でまだ確かめていない。この言葉、男鹿の人以外は秋田の人でもわからない。当時、男鹿の馬鈴薯は男爵といって大変おいしかった。しかし、この薯から澱粉を取る作業は桶に水を入れ、その中へ馬鈴薯を入れてくさらすのでその臭いがひど

く、夏にこの辺の家を訪問した人は皆この臭いに辟易したものである。この澱粉から作ったアンブラ餅は冬の味覚で、各家夫々の味覚を持っていたが餅本体は淡泊な味でくせがない。

入道崎へ遠足に行った時の事も書き加えねばならぬ。何故なら、この話をする時皆変な笑い顔をして本当にしないのである。しかし、これは本当の話で八十年経っても決して忘れないのである。あの悠々と汐を吹いて泳いでいる姿、今でも目に浮かぶ。日本海で生息する鯨で一番多いのはオウバク鯨だが、この鯨は小型なので私の見た鯨ではない。まれにツノシマクジラという鯨が見つかるそうだが、こちらは全長十メートルにもなるというから私の見た鯨と一致する。このついでに「よりがん」が湾に入って来た時の描写がある。よりがんは言葉の調子からみているかだと思うが、泳ぎ方もいるかと似ているのだがイメージは全然違う。あの愛敬のある姿とは全然違うものだった。くちばしもよく見えぬおそろしい形相をしていた。そこで少しばかり日本海にいるかについて調べてみたが、該当するようなのは見当たらなかった。ひよっとしたら鯨かな、とも思っている。

四年生の時担任だった明智先生は明石先生の事で、秋田中学出身である。そこで明石先生と同級生という人に偶然お会いした時、先生について聞いたことがある。当時可成り目立った生徒で、陸上競技と柔道で有名だったという。我々は先生の競走の話、柔道の試合の話聞いて胸おどらしたものだが決して誇張ではなかったのである。

金ヶ崎温泉は今知らない人が多いと思う。県の企業局が造った桜島荘の温泉はこの温泉の湯を引いたのである。丁度加茂と水族館のある塩戸との中間にあって、露天風呂なので夏場にお客が多く鄙びてはいるがきれいな温泉だった。

温泉についてはもう一つ涌の間の温泉があった。この温泉は塩戸の入口にあって、誰の所有かわからないが誰でも自由に入ることが出来た。本にも書いているが、放っておくと海水が侵入してぬるくなるので若者達の手助けが必要だった。残念乍ら男鹿地震で湯が出なくなり今では跡かたもない。

又狐の嫁入りの場面は皆眉つばで読んでいるようだ。しかし我々が見たのは本に書いてある通りで、非常に幻想的に見えたが、あのあたりは塩戸へ行く小径があるので或いは人間の提灯だったかも知れない。狐の嫁入りが現実であり得ない事だとすればそうなるだろうが私は狐の嫁入りを信じ度い。

付け加え度い事柄には雨乞いの儀式的場面があった。丁度二の目潟を見下ろす台地のところにメ縄を張り祭壇をもうけた場面はよく知っているが、そのあとはあまり記憶にない。神主まがいの二人の男がいんちきがばれそうになり、御供えをかつさらって逃げた話があとで伝って来た。この日を見当づけるため、測候所へ行って調べたが日々を特定するにはいたらなかった。

さて、この本は自分の記憶にのみたよったが、今度は集落の人達から昔の話を聞いてもう一度挑戦し度いと思う。